

くさしぎ便り No.20

プラットフォームだより

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2019年7月発行 e-mail kusasigi@nifty.com
ホームページは「辻よし子と歩む会」で検索してください。

LGBTという字を見かけることが多くなりました。異性を好きになる人たちが大多数ですが、同性を好きになる人や、そもそも自分の身体的な性に違和感を持つ人たちがいます。そうした性的少数者の頭文字をとったのがLGBTです。まず、LGBTのことを知るために、研修ビデオを見たのち、市役所の市民課の課長さんと当事者である石塚将輝さん(GID 西多摩代表)から話を伺いました。

第7回 市民のプラットフォーム

2019年4月26日(金)14時～16時

ルピア集会室



知っていますか？ LGBT

お話

あきる野市市民課 課長 (市の出前講座)
GID 西多摩 代表 石塚将輝さん

市民課・課長さんのお話

LGBT、ある集まりで聞いてみると・・・

市民課の課長となるまでは、「LGBT」という言葉の認識は、ほとんどありませんでしたが、窓口、人権の担当として理解を深めるようになりました。

地域のある会合でその場にいた友人5人にLGBTのことを少し聞いてみました。2人が「自分は普通だけど、ゲイの友人がいる。」と話し、他の3人は「LGBTのことは、よく分からないが、別にそういう人がいても構わない」とのことでした。

では、家族や会社の部下にLGBTの方がいた

ら、と質問すると、わが子だったら受け入れられないし、部下だったら困るとの意見に話が落ち着きました。

他人のことなら受け入れられるが、家族や部下など、「自分のテリトリー」に入ってくると「普通」であって欲しいという気持ちが強くなるのが現状なのかもしれません。

LGBTの方々にどう対応したらいいか。

では、私たちは、LGBTの方にどのように対応したら良いのでしょうか？

① 性の多様性について、正しい知識を身につけること。

異性・同性のどちらが好きになるのか、またはどちらも好きになる方もいますが、そうした性的

指向は「嗜好」ではなく、生まれながらの本人ではどうすることもできない部分と捉えられています。性自認も同様です。固定観念や先入観、偏見を持たずに性自認・性的指向を理解していくことが大切だと思います。

② LGBTの方が抱えている課題を十分に理解し、適切に対応していくこと。

まずは、相手の意向を踏まえた対応を考えることが必要かと思えます。



あきる野市の対応は？

その上で、あきる野市の対応ですが、

① 職員研修及びプライバシーへの配慮

市民課には、窓口で外国人の方や障害のある方など、様々な方が来られます。

また、市民相談窓口があり、人権相談等に応じている人権啓発部署でもあります。先入観を持たずに、その人に寄り添った対応を心掛けています。プライバシーの保護では、必要に応じてパーテーションを使用する、別室で話を聞くなど、対応をしています。

② 教育の場での啓発

小・中学校で「人権の花運動」や人権作文、人権教育などに携わることで、相手の立場に立って考えることのできる「人としての土台となる部分」を作ることができるよう取り組んでいます。

③ 申請書類等から不要な性別欄を廃止

あきる野市では、平成25年～26年にかけて、各種申請書類から不要な性別記入欄を廃止しました。



全国でLGBTの方の割合は、5%から8%、13人に1人程度とされています。左利きの方、AB型の方の割合が約10%ですので、一定数の方がいることを認識する必要があります。

ある調査では、トランスジェンダーの方の15%が仕事に就いていないという結果があります。LGBTであることは仕事の能力とは関係ないことです。また、別の調査では、管理職の

35%は同じ職場で働く人がトランスジェンダーだったら困ると答えています。

部下がLGBTだったら？

トランスジェンダーの男性の職員から「女性の服装で勤務したい」と打ち明けられたら、どう対応すべきか、東京都の「性自認及び性的指向に関する専門電話相談」窓口で話を聞いたことがあります。市役所にはサービス規程という職員の身だしなみ等についてのルールがあります。

相談員の回答は「まずは、先入観を持たずに部下の話に耳を傾けること。そのうえで、サービス規程の範囲での服装か否か、その部下がしっかり市民に対応しているか否かを基準に本人に寄り添い対応していくこと。相談に来るような部下であればサービス規程に合った服装をしてくると思われる。」というものでした。

LGBTの方々は、単に性自認、性的指向が特別なだけで、本人に問題があるものではありません。多様性を理解し合える社会になるよう、多様性を受け入れる環境づくりとそれに伴う配慮をしていくことが大切と感じています。

石塚将輝さんのお話



聞いてほしい体験は山ほどある。

「JID 西多摩」代表の石塚です。トランスジェンダーとして、身体的には女性ですが、男性として生きています。ホルモン治療も、性別適合手術も受けていませんが、スーツとネクタイを着て男性として暮らしています。

スーツ姿で、あきる野市役所に転入届を出しに行った時のことです。申請書類の性別欄に女と記したために、「本人を連れて来い」と言われました。トランスジェンダーであると説明したら、当時の窓口ですが「そういう人がいるとは聞いていたけど、ナマで見るのは初めてだ」と言われシ

ックを受けました。「直接」とか「ジカに」なら、まだよかったけど「ナマ」と言われるとは。

また、辻さんと小学校を回って、LGBTの話聞いてもらっていた時期に、教育委員会の責任ある職員が代わったので、LGBTのことでお役に立つことがあれば市に協力したい、一緒に動いていただけませんかという話をしたところ、「あなたに手伝ってもらうことは何ともありません。心配していただかなくても結構です」と言われました。市が、当事者である僕と一緒にやっていくことこそが、市民との協働だと思っていたのですが「職員は研修を受けていますから、心配いりません」と言われた時、僕は市から弾かれたと思いました。思い出すと今でもイラっとします。

先日、千葉県柏市で行われたLGBTの相談会で相談員を務めたのですが、僕の前に、本人ではなくご両親が相談に来られて、父親が「あんな子、要らねえよ」と言ったことが非常に心に響いてしまいました。僕もカミングアウトしたとき、ある宗教団体の人から、男か女か分からないなら、生きていても社会の役に立たないから、今すぐここで死ぬと言われたことがあります。その時はとても腹が立って、「見本を示してくれたら、後を追いますよ」と言い返しましたけど。(笑)

ひとりひとりがその人らしく

市議会の議員の中にも、世の中には男と女しかいないと公言している議員がいます。それでは、議員に相談したい当事者は困ります。



ひとりひとりがその人らしく、その命をどのようにも輝かせていくことができる、それを市民からも市役所からも、お互いに協力しながら作っていかれたらいいと思っています。「住んでよかったあきる野市、いつまでも住み続けられるあきる野市」に、市役所と市民が協働してできたらいいと思います。あきる野市はLGBTについて市民の理解が進んでいないように見えます。啓発活動をご一緒にやりましょう。



エル・ジ・ビー・ティー LGBTって何？

L = Lesbian (レズビアン、女性同性愛)

G = Gay (ゲイ、男性同性愛)

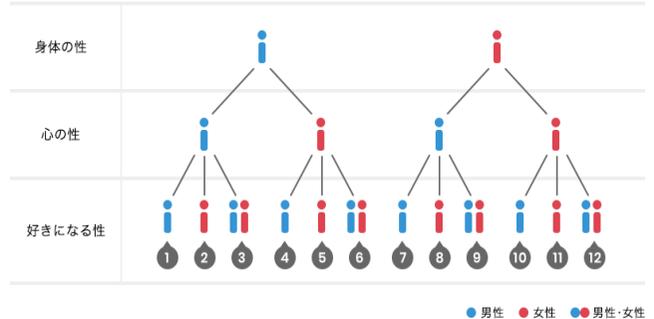
B = Bisexual (バイセクシュアル、両性愛)

T = Transgender (トランスジェンダー、性別を超える一身体的な性と心が自覚する性とが異なる)



身体の性、心の性(性自認)、好きになる性(性的指向)によって、個々人の性のあり方はさまざまです。

(下表 TOKYO RAINBOW PRIDE ホームページより)



質問コーナー



◆ 石塚さんへの質問

Q 私はジェンダーフリーな社会が理想だと思っている。トランスジェンダーはジェンダーを脱することだと思っていたが、なぜ男性性を象徴するスーツとネクタイを身につけるのか。

A 女性として暮らしている時は辛かった。男の服装で生きている今は、「素」の自分でいられる。スーツを男の鋳型とっていない。スーツ・ネクタイ姿が、僕は最も自分でいられる。

◆ 市民課課長さんへの質問

Q 職員啓発は具体的にどのように？

A 職員啓発は研修用DVDを見るなどして理解を深めている。窓口には様々な方が来ることを理解させ、先入観のない対応をしてもらっている。

他の課でも LGBT の研修用 DVD を見るなどの取組は行い始めている。

Q 3月の議会において、LGBTの当事者が相談しやすいように、レインボーカラーの缶バッジを付ける、旗を窓口に置くなどの他市の取組を行ってはどうかとの提案があった。その際に、関西のとある市ではそのような取組が当事者から批判されたとの回答があった。批判の中身は？

A 大阪市において、多目的トイレの入り口に LGBTの方が利用しやすいようにレインボーマークを掲示していたが、当事者の方から「マークがあると特定される可能性があり逆に使いづらい」との指摘があり、違和感を覚える人が少しでもいる中で、マークにこだわる必要はないと判断し掲示を中止したものと聞いております。

Q 以前、五日市中学校では女子の制服にズボンがあったが、今はどうなっているのか？

A 同様に、議会の質問には、女子の制服にズボンの導入を求める提案もあったが、現時点では市側は導入の予定はないとお答えした。五日市中学校のことを私は認識していなかった。

◆ 会場からのいろいろな発言

・折口信夫、芭蕉、三島由紀夫、コンピューターの発案者など多くの性的少数者により、私たちは寄与を受けている。そうした事実が全く言及されてこなかったが、一面的ではなかったかと思う。

・国立市のレインボーバッジの取組を視察したが、LGBT当事者から「少し研修を受けたぐらいで、自分たちのことをどれだけ知っているつもりか」と批判があったそうだ。これからも理解していきたいという思いで、バッジをつけていることをもっとアピールしなければならなかったという職員の言葉が印象的だった。

・トランスジェンダーは今後も減ることはない。
・課長さんの話では、当事者の中には「静かにしてほしい」と意見もあるということであったが、「いないこと」になっているだけなのではな

いか。生きにくい社会で我慢を重ねてきて、どうして自分たちは多数者と同じ様に生きられないのかという声が、今出てきてこれほどの大きな動きになっているのだと思う。自然にカミングアウトでき、受け止められる社会でありたい。

・障害者、LGBT、高齢者などを広く障害者にとらえ、「障害」は本人ではなく社会にある、社会が持つ「障害」に気が付いてもらう研修があって、DET研修（障害者差別解消研修）と呼ばれている。多くの方に参加していただき、考え方を変わってもらうチャンスにしてもらいたい。

・現在80歳。昔はゲイもいたが、そういうことを公にすることができなかった。いい時代になったと思う。LGBT本人たちの気持ち、心の中は分からない。理解するしかないと思っている。

・誰も、他人のことを全部理解することはできない。LGBTの人々のことも理解できないかもしれないが、できることや手伝えることがあったら一緒にやろうと思っている。実際そのようにしてきて、その過程でいろんなことを学んだ。彼らが困ることは普通の人間にとっても具合が悪いことであると気づかされた。（質問コーナー終了）

その後、車座になり、さらにLGBTについて、参加者の考えや思いに耳を傾け話しあい、散会。

第8回 市民のプラットホーム 学校、好き？きらい？

8月25日(日)
14:00~16:00



あきる野市 中央公民館

別館2階 第7研修室 (参加費:無料)

お子さんたちは学校を楽しんでいますか？
学校の居場所について、みんなで話します。
4人の方の体験談を聞きながら、わいわい語り合いましょ。ご参加お待ちしております。